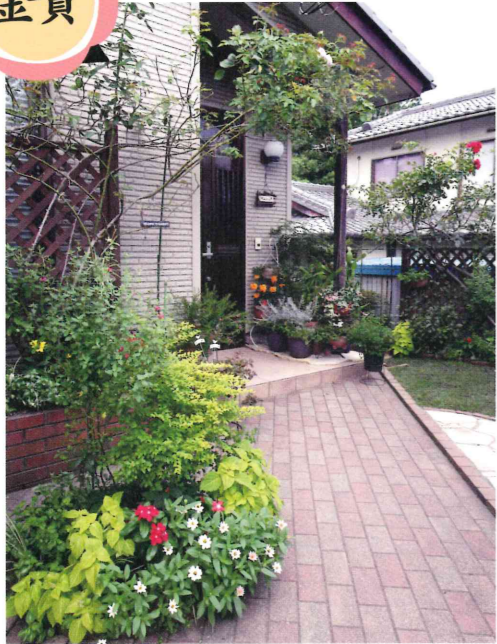


個人の部

金賞

高橋 清美 様 (南陽町)



講評 花の種類や色、見え方を十分に考えて工夫し、光の加減も考えながら庭に配置されているのに、花々が主張せずいいハーモニーを醸し出しています。このような庭でしたらいつまでも花談議に花が咲くことでしょう。素晴らしいお庭です。

銅賞

加納 博子 様 (八幡)



講評 和風の家屋と前庭の花がとても良く調和しています。広い前庭の大半がコンクリートで覆われているのに、そのことを感じさせない見事な庭の作りです。裏庭にも心が行き届いて、自分でできる自然風の庭の見本といえます。

奨励賞

谷口 英雄 様 (大領町)



奨励賞

田中 恵子 様 (三谷町)



カブッキー賞

犬丸児童クラブ

講評 様々な工夫をしながら、花を育てる楽しみを子どもたちと一緒に取り組んでいます。花育と食育と一緒に融合させたことで、植物をより身近に感じられることに成功しています。カブッキーもそれに一役買っていました。



田谷特別賞

部門を問わず作品が優秀であり、大勢の人の和を創出する役割を持つものやメンバーが連携して困難を克服し活動を継続しているもの



中海資源保全会

講評 平成19年4月より活動。現在は町内会、婦人会、老人会、子供育成会、JA小松市中海支店が協力し、ロードパークなかうみの里の法面の芝桜植栽と除草・清掃などの管理を行っています。熱心な活動は様々な効果をもたらしました。ロードパーク利用者のマナー向上はもとより、開花シーズンには多くの方が芝桜を楽しむ花の名所となっています。全町民参加による「芝桜の里なかうみ」を目標とした地域一体の取り組みが高く評価されました。

審査員長講評

審査員長 和田 博幸 氏

公益財団法人 日本花の会 主幹研究員 樹木医

例年にも増して暑い中で審査を行いました。こんな時に花壇の花はいったいどうなっているんだろう？ そんな不安をよそに、真夏の強い日差しに照らされ、暑くても健気に咲いている花を見て、審査員一同、頑張らねば！という思いで審査させていただきました。

審査員が採点する主な審査項目は花壇の出来映えに関してです。花壇と景観との調和、色調、生育環境を考慮した配置、生育状態、花つき、雑草処理、花がら処理、花壇の演出、そしてそれらを考慮したうえでの総合評価を加点します。審査員はそれぞれの項目について別々に採点しますが、私の場合は花壇を見た時の第一印象を大切にしています。スーッと目に入ってくる花壇は粗がなく、周辺の景観とも調和し、よく管理され、真夏でも花はきちんと咲いています。そして何と言っても花壇に物語性を感じます。

花壇の物語は、面積が広い、狭いにかかわらず、公共の場所であろうが、プライベートの場所であろうとも、いい花壇に感じます。花壇が何を伝えたいか、どのように手をかけてお世話し花を咲かせているか、その場所を花がどう演出しているか、いい花壇といい花にはそのような物語があるのです。

花壇の物語は花壇づくりをしている方々が作るものです。素敵な花壇の物語が市内のあちこちでつぐられれば、フローラルこまつの新たな展開にもつながると思います。これからも期待しています。

# フローラルこまつ

花のコンクール大賞

## 2018夏 花のコンクール大賞

